



発行：救いの光教団
編集：神成編集室
東京都世田谷区北沢
(☎155-0031) 2-22-10
電話 代表 03(3413)0123
http://sukui.jp
毎月1回1日発行
購読料 1部80円
(会員の購読料は会費を含む)

2023
No.608
4月号



「散花結実」解説

明主様はご自身でもおっしゃっておりますが他の宗教にはない合理主義者であり、同時に体系的な世界観をしっかりと持ちておりました。この書もまた明主様の現世的な世界観を表したものである。

(思想家 栗田勇)

— 善と悪 —

眼に見ゆる 徳は誠の徳ならじ

見えぬ徳こそ神に通はむ

諸々の 悪を育くむ種こそは

嘘伴りの心なりけり

善悪の 差別も分からぬ人間を

作る教は偽真理なるらめ

◎教団方針

ひろげよう浄霊の輪

ひろげよう仲間の輪

築き上げよう愛と活気あふれる教団を

◎方針のみちしるべ

- (一) みつめなおそう明主様の心
- (二) つらぬきとおそう明主様の心
- (三) 教団綱領を尊び実践する
- (四) 信仰継承は家族と家庭円満から

神言霊

『霊と体・運不運』

を信じて、大いに善徳を積むべきである。次に運不運も同様であって、人間の体は現界に属し、霊は霊界に属しており、これが現界、霊界の組織である。

人間の運不運は霊界の地位いかんによるのである。勿論その因は善悪の因果律による以上、悪人ほど愚かな者はないわけである。事実悪で出世をしても一時的で、いつかは必ず転落するのは前記のごとく霊界における籍が地獄にあるからである。

そうして、その人の善悪によつて上にも昇れば下にも降りる。すなわち善を行えば天国に上り、悪を行えば地獄に墮ちるのである。しかも現界と異なつて霊界は至公至平にして、いささかの依怙もないから悪人には都合が悪いが、このことが信じられる人にして、真の幸福者たりうるのである。現在いかに不運であつても、その人の善行次第で、霊界の地位が向上する結果、いつかは幸運者となるのは、厳として冒すべからざる神律である。したがって、この理を論えるのが宗教本来の使命である。

まず知っておかねばならないことは、霊界と現界との関係である。というのは人間という者は、肉体の着衣と同様、霊も霊衣(アウル)を着ており、霊衣とは、一種のエーテルであつて、これは霊から放射される光で朦朧体ではあるが肉眼では見る人もある。そうして霊衣なるものは、天気と同様、常に晴れたり、曇つたりしている。すなわち善を思い、善を行えば晴れ、悪を思い悪を行えば、曇るのである。ゆえに正しい神を信ずれば、光を受けて曇りはそれだけ消される。ゆえに正神に帰依し、人を救い、善徳を積み積むほど、光は増から霊衣も厚くなる。また霊衣は、その人の心がけ次第で、厚くもなり薄くもなるので、人間は、この事

天上祭「光守様」おことば「抜粋」

「長き世を踏み躪られし野の草も
芽生え初めけり春立ちてより」

この神歌は、明主様が昭和二十一年、立春の日におつくりになりました。

春が立つと同時に長い間踏みじられてきた野の草が芽を吹き出しました。まことにめでたいなあー」という御心でございましょう。

また、ご神業のうえにも、春がきたというおよるごびに溢れた明主様の御心を感じるのでござい

ます。明主様はちょうど今から六十八年前の今日、白梅の美しく咲き香るなかで、長い御神業の生活に終止符をうたれて御昇天になりました。

御昇天祭について、こちらでは天上祭と申しております。どういふ祭典ですかと問われましたら、「明主様が御肉体を通じての御救いから、神界よりの直接の御救いに入られた日が、一九五五年二月十日、昭和三十年二月十日でございます。天上祭には、私達は御守護に対する感謝のお祈りと、お許しを頂いております御用を誤りなく果たさせていたただけますよう、御守護のお祈りを捧げさせていただきます。

分はいずれば神界に戻って、その時は肉体のそういう制約がないから、もつともつと充分に救いの業に入れる」ということを仰つたわけでございます。

ていただくでございます。

明主様は肉体をもって、神言霊を御執筆になられ、あるいは御浄霊のことを私達に教えてくださ

つたわけでございます。

また、芸術のことも、いろいろあらゆる分野にわたって、私達人間にとつても、もつとも大切なことを教えてくださったわけでございます。

これは私達ももつともつと浄まつていけば、直接いろいろな、そういう御啓示によって、私達が悟らせていただくことが出来たかもしれませんけれども、私達の場合にはなかなかそれができません

ですから、文字とかお言葉を通して、そういう深い真理を教えていただいたわけでございます。

明主様はかつて「自

分はいずれば神界に戻って、その時は肉体のそういう制約がないから、もつともつと充分に救いの業に入れる」ということを仰つたわけでございます。



三年ぶりのお着物姿で式典に臨まれた光守様

ですから、明主様は、現在は直接神界から私達を御救いくださっているわけでございます。

私達がこの御浄霊のお取り次ぎをさせて頂けるのも、明主様が神界から私達に、おひかりを通してこの御力をくださっているからでございます。

今日ですね、私達数々の御守護にたいしまして、心から感謝のお祈りを捧げさせていただきます。明主様から託していただいております使命を十分に果たさせていただけますように、皆様と共に、御守護の御祈願をさせて頂きたいと思っております。

明主様から託して頂いております使命とは御浄霊のお取り次ぎでございます。

皆様、その姿勢で結構です。今御神名を申し上げますので、一緒にお祈りいたしましょう。

会長訓「芽吹き」

桜の種類は三百種もあるといわれていますが、その八割がソメイヨシノだそうです。その桜も樹齢六十年を超えると寿命を迎えるといわれています。最近あちらこちらで古木となつて朽ちていく姿を見ますが、手入れ次第でずいぶん寿命は延びるようです。

私たち人間も定められた寿命はあるものの、年齢を伸ばすには手入れ次第でしょうね。魂は永遠に現世と霊界を行ったり来たりしますが、肉体は現世での魂の宿りどころで、現世のみに許されたものです。明主様はこの身体というものが何故存在するかといえは、「この地上に理想世界を造るために神から与えられたものである」と仰つて

います。そして、誰もが出来上がった世界で生活を営み

たいと願ひ、目標でしょう。ところが生活している内に、目には見えない汚れが蓄積されます。その汚れは今月の神言霊で学ばせていただいたように、霊衣を薄くし、霊層の居場所を下げて、生活境遇の悪化を招きます。

そうならないように、明主様は「汚れを払拭する方法としては苦悩によるか、または善行を重ねるかの二つであるが、後者を選ぶ方がいかほど安易であるか」とお諭しされています。この教えを日々の生活の中に活かし、感謝の光を頂けるように実践してまいりましょう。

季節の変わり目です。春は自然界が芽吹くときです。人間の身体も活性化して、溜まった汚れの浄化が始まります。徳を積み、浄霊で浄めて御用にお使ひいただきますように。

『教団創立次の五十年に向けて』

「救いの光教団がパワースポットとなり一人でも多くの皆さんが幸せになりますように」

山田友子 〈責任役員 浜松教会長〉

教団創立五十一年、新たな年が早くも数カ月過ぎようとしています。五十年という節目から次の五十年、地上天国、真善美の世界にむかつて進んでいます。

私は、祖父母が人信していた為、子供の頃遊びに行くといつも祖父が御浄霊をしてくれました。御浄霊を全く知らなかったのですが、今でも、気持ちが良いという感覚は、はっきりと覚えています。御浄霊をいたたくと、何ともいえない感覚で癒されます。心も身体も、そして何より魂が、浄め清められます。

私は、明主様と御縁をいただいていたいなかったら、御浄霊をいただいていたいなかったら確実に今頃霊界にいます。あちらの世にいらしてました。十八歳浄化の際、白い着物を着た男性が私の方へ向かってきたのを、母に頬を叩かれ先生に名前を呼ばれ助けていただきました。四十代には大きな浄化の際、部屋の中で立っていた時、突然童巻のような物が私の身体を襲い、母が私を抱えてくれる中、「明主様助けて!!」と何回も叫び、少しするとちょうど次男が原付で帰宅する音で、すーっといなくなり助けていただいた事。思い出しても恐怖を感じる様な体験をして何回も御守護をいただきました。

色々な体験を通して明主様岡田茂吉師の偉大さ、御浄霊の偉大さ、素晴らしさを更に知りました。

医学が発達しているのに患者数は増え、病院はいつも混雑。精神的、肉体的な苦しみをかかえている人は山ほどいらつしやいます。今後私達が明主様の教えや御浄霊を伝えていかないと霊界は救われず、悪の想念、言霊、行い(心言行)から益々考えられない犯罪や、天災、震災がおこつてしまつてしまうように思います。

「世界に二つだけの花の歌のように、その人その人それぞれ得意、不得意、出来る事、出来ない事はあります。私も、申し訳ないのですが文章を書くことが苦手で、今回も苦戦して原稿提出締切ギリギリです。

今、自分出来る事は誰でも何か必ずあります。場所、年齢、性別、身体の状態様々ですが、祈る事。浄霊する事(授受、想念、自己)。他にもたくさんあります。

私達は明主様と御縁をいただいているので、目の前で苦しんでいる家族他誰にでも、御浄霊をお取次ぎさせていただきます。遠く離れた地球の反対側でも想念浄霊をさせていただきます事ができます。又、御祈願をさせていただく事もできます。

報道されているニュースを、戦争、天災震災、事件、事故をテレビのラジオの、どこかの出来事ですませないよう、明日は我が身。いつ、自分の身にふりかかるのかわかりません。百周年を迎える時、私はどこに居るのかわかりませんが(笑)、食事して睡眠をとるように、自然に全世界で御浄霊のお取次ぎができるようになってい事を祈ります。自分に出来る事。を。想念浄霊から。一分でも毎日の神言霊は魂を浄めます。神言霊を拝読すると、目からお光がいただけます。こんな有難い事はありません。

美味しい食べ物、綺麗な花、物の事は人にお話ししたり、勧めたりすると思ひます。相手に、この素晴らしさを伝え分かち合いたい。

同じように宗教の枠をこえ、できないのではなく、できる事を。温故知新で、明主様の教えを、時代に即したお伝えを、まずは御浄霊の手をかざす事をしていただきたいと思ひます。(手を添える事だけでも)一つの教えを、御浄霊を一人で行えば一人分。ひとつの教えを、たくさんの多くの方で行えば、多くの人に伝えられれば、《教団創立百周年》幸せになる人が増えている事と思ひます。まずはお花の種をまきましょ。

どうぞ、神成昭和六十年一月号(No.一四八号)をご覧になっていただきたいと思ひます。《立教五十年》が掲載されています。目からも御浄霊をいただきます。皆様と共に若者男女問わず、救いの光教団がパワースポットとなり、一人でも多く幸せになつていただけるよう、一緒に宜しくお願ひいたします。

笑いましょ。明主様のお顔を思い浮かべ、とにかくマスクの下でも口角を上げ、笑顔を心がけましょ。明主様が私達を通して、福を、仲間を呼びよせてくださることです。百周年楽しみにしています。感謝です。

「いつやるの?」
「今でしょ!!」



3月1日祈願祭(東京教会)にて

会長 大沼 泰彦

桜前線が日本列島を北上しています。三月に賜りました神言霊で富士山と木花咲耶姫の御神意を学ばせていただきました。木花咲耶姫は桜の花で、私たちに艶やかなお姿を見せられています。神の恵みにお応えされたでしょうか。



『教団創立次の五十年に向けて』

「子どもを持つ親世代が教会に 来たいと思える環境作りを」

板垣 伴美

〈浜松教会〉

私が子どもだった当時は年齢の近い子が多く、またお世話を下さるお兄さんお姉さん世代も大勢いました。青年会が盛んだったこともあり、こども祭は近くの体育館を借りてレクリエーションをし、練成会

は他地域の教会の友達がたくさんでき、とても楽しかった記憶があります。私は自分の子どもにも教会でしか味わえない楽しい体験してもらいたいと思っていました。娘が小学生の頃には子どもも少なくなり、練成会などは保護者も一緒に参加できるよう企画が変わっていましたが、私としてはとてもいい試みだと思いました。楽しかった催しに子どもも参加できる喜びはもちろん、同じ子どもを持つ知り合いも多く出る、子育てについての話がはずみました。

この体験には青年育成についてのヒントがあるのではと思いました。まずは子どもを持つ親世代が教会に来たいと思える環境を作ることも一つの手段ではないかと考えたのです。例えば、その世代がやりたいこと興味のあることはもちろん、子どもにも体験させたいことを積極的に企画することで、親子で教会に足を運ぶ機会も自ずと増えるのではないのでしょうか。子どもにも良い影響を与えるだけでなく親同士も交流を深めることで、将来的には今後の青年育成に向けてどうすべきかの意見交換も

身も心も楽になっていくと思います。さらにそれらを委員会が採用し、企画・運営に活かすことでより良い循環が生まれることを期待しています。

一方でそう上手くはいかない現実もあります。ここ数年で爆発的に流行したコロナウイルスによって教会自体が閉鎖になり毎月行われていた教会でのご参拝が叶わなくなった時もありました。原因も分からずワクチン開発が急がれる中で、外出しないことだけが感染から自分を守る唯一の方法でした。世の中が急速に動きを止め、突然やってきた非日常に不安な気持ちを抱えた方も多くいたことでしょう。

しかし、このようなご時世だからこそ、神様の存在や宗教は心のより所になっているのだと強く実感しました。また、今では徐々に規制も緩和されていき、コロナ禍以前の生活にもどつつあります。ソーシャリティを運ぶ日々はコロナが落ち着き始めていることをより一層実感させてくれました。自分にとって教会がどのような場所であったのか再認識できたような気がしました。

例えば歴史の中で人々は幾度となく感染症というものに脅かされてきました。長い目で見ればコロナもその一つにすぎず、今後このような流行り病が無いとも言えません。「病は気から」という言葉もあるように、必要以上に不安な気持ちがある場合もあるでしょう。そこに寄り添ってくれるのが神様や教会であり、だからこそ普段からご参拝をさせていただく信仰心、心構えが大切なのだと考えさせられました。教団五十周年を迎えた節目のタイミングでこれらに気付けたことは苦しい中でも運がよかったと言えます。

自身の気づきや学びを大切にしながら、次の五十年に向けて今以上に救いの光教団が発展していきますよう、委員会のメンバー時にはそれ以外の信者さんたちとも知恵を出し合いながら努めて参りたいと思います。

昨年九月二十三日、光守様と信徒さん、私の六名で伊那開場の稲刈りのお手伝いに参加させて頂きました。平均年齢七十九歳という驚きのメンバー構成でした。

昨年九月二十三日、光守様と信徒さん、私の六名で伊那開場の稲刈りのお手伝いに参加させて頂きました。平均年齢七十九歳という驚きのメンバー構成でした。

昨年九月二十三日、光守様と信徒さん、私の六名で伊那開場の稲刈りのお手伝いに参加させて頂きました。平均年齢七十九歳という驚きのメンバー構成でした。

昨年九月二十三日、光守様と信徒さん、私の六名で伊那開場の稲刈りのお手伝いに参加させて頂きました。平均年齢七十九歳という驚きのメンバー構成でした。

昨年九月二十三日、光守様と信徒さん、私の六名で伊那開場の稲刈りのお手伝いに参加させて頂きました。平均年齢七十九歳という驚きのメンバー構成でした。

昨年九月二十三日、光守様と信徒さん、私の六名で伊那開場の稲刈りのお手伝いに参加させて頂きました。平均年齢七十九歳という驚きのメンバー構成でした。

境 和之 〈東京教会〉

入信の御挨拶

昨年九月二十三日、光守様と信徒さん、私の六名で伊那開場の稲刈りのお手伝いに参加させて頂きました。平均年齢七十九歳という驚きのメンバー構成でした。

昨年九月二十三日、光守様と信徒さん、私の六名で伊那開場の稲刈りのお手伝いに参加させて頂きました。平均年齢七十九歳という驚きのメンバー構成でした。

昨年九月二十三日、光守様と信徒さん、私の六名で伊那開場の稲刈りのお手伝いに参加させて頂きました。平均年齢七十九歳という驚きのメンバー構成でした。

昨年九月二十三日、光守様と信徒さん、私の六名で伊那開場の稲刈りのお手伝いに参加させて頂きました。平均年齢七十九歳という驚きのメンバー構成でした。

「私は引きませんよ、ある信者さんの声に背中を押されて」

昨年九月二十三日、光守様と信徒さん、私の六名で伊那開場の稲刈りのお手伝いに参加させて頂きました。平均年齢七十九歳という驚きのメンバー構成でした。

昨年九月二十三日、光守様と信徒さん、私の六名で伊那開場の稲刈りのお手伝いに参加させて頂きました。平均年齢七十九歳という驚きのメンバー構成でした。

昨年九月二十三日、光守様と信徒さん、私の六名で伊那開場の稲刈りのお手伝いに参加させて頂きました。平均年齢七十九歳という驚きのメンバー構成でした。

昨年九月二十三日、光守様と信徒さん、私の六名で伊那開場の稲刈りのお手伝いに参加させて頂きました。平均年齢七十九歳という驚きのメンバー構成でした。

昨年九月二十三日、光守様と信徒さん、私の六名で伊那開場の稲刈りのお手伝いに参加させて頂きました。平均年齢七十九歳という驚きのメンバー構成でした。

「明主様の御心を求める展示会」開催のおしらせ

六月十八日(日)まで東京本部館内にて御額、御軸を中心に常時二十点以上の御遺作を随時展示内容を変えておこないます。この機会に是非東京本部に御参拝下さい。(東京教会の休館日を事前に確認下さい)

六月十八日(日)まで東京本部館内にて御額、御軸を中心に常時二十点以上の御遺作を随時展示内容を変えておこないます。この機会に是非東京本部に御参拝下さい。(東京教会の休館日を事前に確認下さい)

六月十八日(日)まで東京本部館内にて御額、御軸を中心に常時二十点以上の御遺作を随時展示内容を変えておこないます。この機会に是非東京本部に御参拝下さい。(東京教会の休館日を事前に確認下さい)

六月十八日(日)まで東京本部館内にて御額、御軸を中心に常時二十点以上の御遺作を随時展示内容を変えておこないます。この機会に是非東京本部に御参拝下さい。(東京教会の休館日を事前に確認下さい)

六月十八日(日)まで東京本部館内にて御額、御軸を中心に常時二十点以上の御遺作を随時展示内容を変えておこないます。この機会に是非東京本部に御参拝下さい。(東京教会の休館日を事前に確認下さい)

光守様 浜松教会訪問 二月十九日(日)

浜松教会感謝祭で
おことばをのべる光守様

冒頭山崎智恵元教師の厳しかったこと、教師たるべく心構え、そして陰で支えてくださった思い出話からはじまり、会場はいっきに笑いと温かみに包まれました。

「明主様の御心を求める展示会」開催のおしらせ

六月十八日(日)まで東京本部館内にて御額、御軸を中心に常時二十点以上の御遺作を随時展示内容を変えておこないます。この機会に是非東京本部に御参拝下さい。(東京教会の休館日を事前に確認下さい)

六月十八日(日)まで東京本部館内にて御額、御軸を中心に常時二十点以上の御遺作を随時展示内容を変えておこないます。この機会に是非東京本部に御参拝下さい。(東京教会の休館日を事前に確認下さい)



おことばをのべられる光守様



多くの信徒さんが参列された



「明主様の御心を求める展示会」開催のおしらせ

岡田茂吉 の 自然農法 教団伊那農場より 二月～三月のお知らせ

この度も、前回同様冬場の伊那農場のお知らせをさせて頂きま

す。この記事を書いた二月はまだ地面が凍り付いて

いるほど寒く、耕作は一切できません。その為、秋に蓄えた畑の大豆を選別し、良い豆を取り出す作業を行いました。枯れて程良く色づいた大豆を更に貯蔵先で乾燥させ、「豆たたき」という昔ながらの方法でサヤから取り出し、選別をします。け

つして大量とは言えませんがしっかりと実ったその大豆は、近隣で自然農法の農作物を使ってお菓子を作るお店を持って行き、試作を依頼してみるなど、新たな活用法の模索も行って

おります。翌月三月に入ってから今年の稲作に向けた前準備として、「種モミのノギ取り」を行いました。ノギ(芒)とはモミ殻の先端部に細長く伸びた棒状の部位で、そのままの状態にするとモミ播き時に機械内に引っかかってしま

い上手く蒔けなくなります。各作業が忙しくなってくる四月より前に毎年行うこととしており、この度も近隣の農家の方に依頼し、種モミを専用の機械にかけてノギを取り除きました。

さて、このノギですが、多くのイネ科植物の種子に見られる特徴であり、元々の役割は動物や鳥から種子が食べられるのを防ぎ、ノギ表面の細かい棘を利用し動物の毛に絡ませて遠くへ種を運ばせるなどであったそうです。そのため種の数倍の長さになり、多くの野生のイネ科植物の他、コムギやライムギなど麦の仲間

の仲間もそのような形になります。何故か栽培イネのノギはそこまで長くなりません。様々な研究が行われておりですが、分からない事も多いのだそうです。私達の生活に無くてはならないお米にも謎が秘められている事に、とても不思議な気持ちになります。

なっております。今回、初めて「ひな祭り会」を行いました。皆さん大変喜んでおりました。

塩竈教会は、女性信者の方が多く、全体の七割以上を占めています。今回、コロナもだいぶ治まって来ましたが、初めて「ひな祭り会」を行いました。皆さん大変喜んでおりました。

青梅マラソンは今年で五十五回目を迎え、全国から三、〇〇〇人のランナーが集まりました。コロナ感染症の影響により、三年ぶりの開催となります。今年で四回目十kmコースでのエントリーですが、トレーニングを始めたのが、一月中旬からでした。

トレーニングでは走り始めると足が重く思う様に走ることができません、少し走っては早足で歩いたり、その繰り返しでした。そんな状態のままマラソン当日を迎え、不安な気持ちでいっぱいでしたが参加する事に意味があると思っ、正直重苦しい当日の朝を迎えました。

早朝七時過ぎに光守様より励ましのお電話を頂き、心温まるお言葉に勇気とパワーが満ち溢れました。お聞きすれば、浜松教会の感謝祭に向われている移動中との事。御多忙な日にもかかわらず、車中よりご連絡を頂きました事はこの上ない喜びです。

「排他的、独善的」な信仰を戒め、軟らかき春風が吹くが如く人に優しく謙虚な姿勢で、他人の幸福と社会福祉に努めなさい」という教えです。Kさんは春風が吹く和気あいあいとした中で、本物の信仰を学べる教会が大好きだったようです。

先日、浜松教会の感謝祭に伺いハッと気付きました。この浜松教会自体がまさに『常識』の教えを実践されているのではないのかと……。外では春一番を思わせる強風の吹き荒れる遠州の地で、軟らかき春風をたっぷり受けて、帰路につきました。

「一人の方が断然力が湧きますよ。」という有難いお誘いの言葉に力ももらいながら走っていると、目の前のフィニッシュ地点の青梅市役所に無事ゴールする事が出来ました。タイムは三年前より十分遅れはしたけれど、素敵な出会いがあり感謝の気持ちでいっぱいでした。沿道、地元の方々、大勢のボランティア、教会の皆さん、明主様、光守様の応援本当にありがとうございました。

光守様はじめ多くの信徒さんが長い時間をかけて浄霊のお取り次ぎしていました。ご神前は厳粛ななかにも慈愛に満ちた雰囲気にも包まれました。

「浄霊フリーDAY」に小松さん夫妻参加。十年前程に脳出血で倒れ、左半身に麻痺が残っており、現在リハビリに励まれている小松輝安さん(東京教会所属)が、二月二十六日妻の佐知子さんを伴って浄霊フリーDAYに参加しました。小松さんは教団、教会の祭官として、各種委員会のメンバーとしてご尽力されています。

「二人の方が断然力が湧きますよ。」という有難いお誘いの言葉に力ももらいながら走っていると、目の前のフィニッシュ地点の青梅市役所に無事ゴールする事が出来ました。タイムは三年前より十分遅れはしたけれど、素敵な出会いがあり感謝の気持ちでいっぱいでした。沿道、地元の方々、大勢のボランティア、教会の皆さん、明主様、光守様の応援本当にありがとうございました。

光守様はじめ多くの信徒さんが長い時間をかけて浄霊のお取り次ぎしていました。ご神前は厳粛ななかにも慈愛に満ちた雰囲気にも包まれました。

と、好奇心旺盛な若者の人流が途切れることがありません。東京教会では街景観指定地区のなかで派手な広告はできませんが、できる範囲での広告手段を使い、『浄霊(johrei)』の単語を広める活動を開始しました。

ホームページでは宗教色を極力控え、現代人が抱えているであろう悩みのキャッチを押し出した体験談が注目を引き付ける鍵と考えています。手探り状態でのオープンですが、皆さまご覧になっていただき、ご意見くださりますようお願いいたします。

浄霊(johrei)推進委員会

『常識』軟らかき春風が吹くが如く

すでに退会されてしまったようですがKさんという信徒さんのお話をさせて頂き

ます。人情家で厳格な父から日頃「常識ある人間となれ」と教え育ったKさんは入信当初から教会の明るく嫌みのない雰囲気が好きだったそうです。また信仰について聞かれた時は「信仰を通して楽しく教会行事に参加し、自然体で宗教にふれ合うことに喜びを感じている」と答えていたそうです。私がとくに印象に残っていることが、K

さんが貫いた信条が神言霊の『常識』であったことです。

「排他的、独善的」な信仰を戒め、軟らかき春風が吹くが如く人に優しく謙虚な姿勢で、他人の幸福と社会福祉に努めなさい」という教えです。Kさんは春風が吹く和気あいあいとした中で、本物の信仰を学べる教会が大好きだったようです。

先日、浜松教会の感謝祭に伺いハッと気付きました。この浜松教会自体がまさに『常識』の教えを実践されているのではないのかと……。外では春一番を思わせる強風の吹き荒れる遠州の地で、軟らかき春風をたっぷり受けて、帰路につきました。

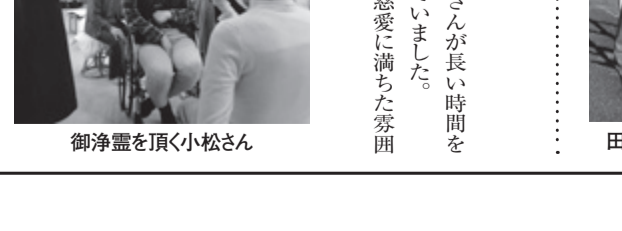
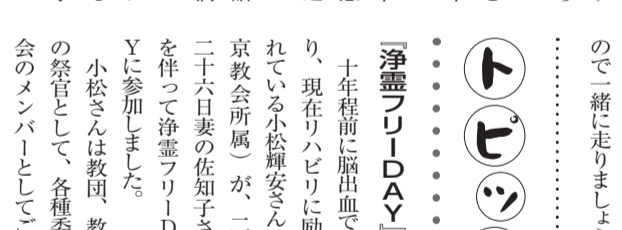
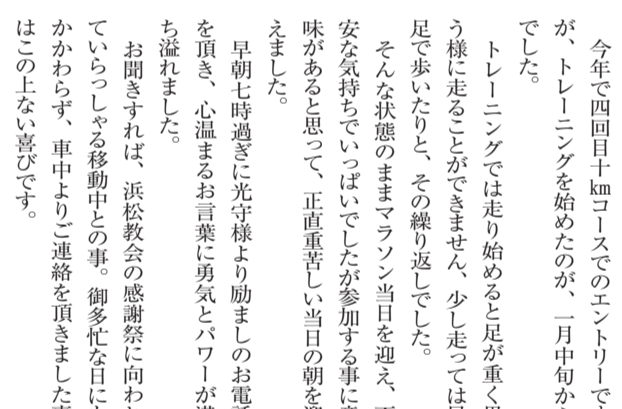
光守の思い



大勢でのお出迎え、本当に驚きました(光守)



全員で記念撮影



下北沢で
ココロとカラダを
整える
浄霊

無料体験会本日開催中!!

浄霊(johrei)推進委員会

03-3413-0123
https://johrei-sukui.com

ホームページ
開設のお知らせ

https://johrei-sukui.com

一般の方向けに「浄霊」を知っていただくこと、体験していただくことに特化したホームページを、三月二十五日にオープンします。

東京教会の在する下北沢は、かつての原宿竹下通りを彷彿とさせる程の若者で溢れ、サブカルチャーを中心として街文化は全国のみならず全世界から注目されています。教会脇、かつて小田急線跡に完成した遊歩道は土日ともな

と、好奇心旺盛な若者の人流が途切れることがありません。東京教会では街景観指定地区のなかで派手な広告はできませんが、できる範囲での広告手段を使い、『浄霊(johrei)』の単語を広める活動を開始しました。

ホームページでは宗教色を極力控え、現代人が抱えているであろう悩みのキャッチを押し出した体験談が注目を引き付ける鍵と考えています。手探り状態でのオープンですが、皆さまご覧になっていただき、ご意見くださりますようお願いいたします。

浄霊(johrei)推進委員会